

吉川永里子著「いばらき ゆたりなカフェ手帖」

ゆたりブックス 茨城新聞社 2009年12月10日刊を読む

いばらき ゆたりなカフェ手帖

1. お茶することを覚えたのは中学生くらいだったと思う。

高校生になると

自由が丘や二子玉川へよく遊びに行った。

2. でもいま茨城に住み始めて思うのは、

カフェに望むものが当時とは違っているということ。

3. カフェによく行っていた 20代前半の私にとって

カフェ = 「空腹を満たす・のどを潤す」

あるいは、座って休むための「場所」。

目的地と目的地の間にある、

いわば途中休憩ポイントでしかなかった。

4. でもそれだけなら別にカフェだけでなくもいい。

だからお金がないときはファミレスだったり、

ファーストフードだったり。

5. 「じゃあ、いまカフェに望むものって何？」

その答えを見つけたのは

確かに茨城に引っ越して来てから。

茨城でカフェにいくたび考えて、たどり着いた答えは、

「その場所でしか味わえない時間と空気感」。

6. それは例えばインテリアや音楽かもしれない。

もちろンドリンクや料理、スイーツでもあろう。

窓から差し込む日差しや見える風景、

香ってくるにおいやかすめる風。

スタッフの気持ちいい気配りとオーナーの思い....。

それらすべてがそのカフェの空気感を作りあげている。

7.そして座につくと、

今日の自分とそのカフェだけの時間が流れ始める。

カフェで過ごすすべての時間は

二度と同じにはならないのだ。

その違いを五感で楽しむ。

今日はここでそんな気分を楽しみたい。

P2 ~ 4

[コメント]

くらしにとけこんだ幸せな時間。何とも気持ちいいカフェがここにあるのです、という紹介で手にしてしまった本書。結城のカフェ ラ・ファミリーユや筑西のカフェ ラグバグなど、私のオススメのカフェも取材され、ちょっと楽しくなる。カフェ好き必読の書。

- 2010年2月11日 林明夫記 -